

大崎市流地域自治による地域づくりが始まって10年が経ちました。これまでに行われてきた、地域や地区の特性を生かした個性あふれる地域づくりを紹介します。

2 岩出山地域 岩出山地域づくり委員会

「話し合い」から始まった取り組みが 人をつなぎ 地域をつなぐ

岩出山地域づくり委員会のすべての活動に共通するのは「話し合い」を大切にすることです。

何かをするために、ワークショップ(話し合いの手法)を行うというよりも、さまざまな立場の人が参加するワークショップから、新たな課題が導かれ、その解決のために、新しい取り組みが始まります。



▲ワークショップの様子

岩出山子育て情報誌の発行

そのひとつに、岩出山子育て情報誌Smiley・Smiley(スマイリー・スマイリー)の発行があります。平成22年に行われた「子育て」をテーマにしたワークショップには、普段、まちづくり活動になかなか参画できない子育て世代の人たちが集まりました。その中で、「子育て世代が関心を向けられる地域の情報が少ない」という話が出されたことがきっかけとなり、参加者も巻き込んで、子育て情報誌づくりが始まりました。



▲子育てママたちの編集会議の様子

地域のおいしいお店や子育てサークルの紹介、バリバリ働くお母さんの紹介や親子で参加できる講座など、子育て情報誌の発行に賛同し、自ら名乗りを上げて編集委員になった子育てママたちが、こまめに足で稼いだイチオシ情報満載で、不定期発行ながら、毎回、大

きな反響を呼んでいます。通常は、賛同してくれた店舗にのみ設置して、自由に手に取ってもらう形ですが、平成26年からは、通常発行に加え、1年に1回、地域全戸にも配られるようになり、幅広い世代から支持されています。

岩出山子育て情報誌 Smiley・Smiley

通常はA5判の手のひらサイズですが、全戸に配布するときは、高齢者の皆さんにも見やすいようにA4判で発行しています。



城山公園の環境整備

「いわでやまを語ろう」と題したワークショップでは、かつて多くの人で賑わった城山公園の桜が話題となり、もう一度あの賑いを復活させたいと、平成22年から城山公園の環境整備活動が始まりました。新たに桜を植樹し、毎月1度の地道な除草活動が続けられてきましたが、今年の春、その熱意は、地域の若者たちに飛び火し、「城山公園さくら復活プロジェクト」として、趣向も新たな桜まつりの開催へとつながりました。



▲城山公園の環境整備の様子

岩出山地域づくり委員会会長の石田政博さんは、「部会同士の垣根が低いので、全員が協力して事業を行っています。しっかりと話し合っただけで進めた事業は、良い結果を生み出します」と話してくれました。



鳴子温泉観光ボランティアの会 会長 馬場 祥悦 さん

活動の概要

鳴子温泉の歴史を学ぶ4人の有志の勉強会からスタート。旅館から宿泊客の観光案内を依頼されたことをきっかけに、平成17年、同会を設立。土・日曜日を中心に年間約500人の観光案内を行っている。現在会員は13人。目下、地域内外から会員を募集中。問い合わせは、鳴子観光・旅館案内センター(☎83-3441)まで

「おもてなしの心」が大きな魅力になる

～ 鳴子温泉観光ボランティアの会 ～

種類も湯量も豊富な温泉資源、鳴子峡や瀧沼などの景勝地、こけしや漆器などの伝統工芸、そしてスキーなど、わたしたち鳴子に暮らす者にとって、まさに観光は最大の産業であり、訪れる多くのお客様に支えられてきました。

観光で訪れる皆さんに、鳴子のことをもっと知っていただきたい。もっと好きになってほしい。そんな思いから、平成17年に「鳴子温泉観光ボランティアの会」を結成しました。会員は、一線を退き、比較的時間に余裕のある世代がほとんどですが、観光資源が多く、鳴子育ちのわたしたちであっても、まだまだ勉強が必要だと改めて感じています。

これまで観光ガイドに携わり、感じているのは、ともに各所を歩き、お話しする内容や接し方が、お客様をもう一度、鳴子に向かわせる一つの鍵になるということ。わ

たしたちガイドだけでなく、市民をあげての「おもてなしの心」が、お客様にとっての、大きな魅力になるということです。

大崎市内には各地域に見どころがあり、観光ボランティアガイドもそれぞれに存在しますが、お互いの地域を案内し合うなどの連携が足りていないのが実情で、わたし自身、反省するところでもあります。

自分たちの住む地域に誇りを持ち、知識を深め、お客様にとって満足度の高い観光へ誘えるよう、各地域とも連携しながら、鳴子温泉、大崎市の観光振興の支え手として、今後も会員一同、励みたいと思います。



▲アメリカからのお客様と

「耕不尽」明るい豊かな社会を創造するために

～ 公益社団法人おおさき青年会議所 ～

おおさき青年会議所は、大崎地方に住まう、業種や性別を越えた、20歳から40歳までの青年たちで組織しています。現在の会員は55人。進学や就職で一度故郷を離れた人が多く、新たに地元での生活や生業を始める中で、同年代の仲間との「つながり」を求めて集った仲間たちです。

これまで、まちづくりや青少年教育などの事業を行ってきましたが、わたしたちは、決してまちづくりや人づくり、ボランティアを行うことが本業ではないと考えています。自分たちの暮らしや仕事、子どもたちの未来について、大崎に暮らす自分たちはどう向き合っていくべきか。予測がつかないこれからの時代にどう対峙していくか。仲間たちと危機感や問題意識を共有する中で、本気で考え、アイデアを出し合い、失敗を恐れず実践していく。青年会議所はそんな術を身につけ、自分を磨く場であり、

その努力の積み重ねが、さまざまな事業を形作ってきました。

「2016 おおさき花火大会」は、8月2日(火)に開催します。今年のテーマは「華願う～輝く未来のために～」です。華という言葉に、華やかさや輝き、人が集うという意味を込め、笑顔・希望・つながりを生み出し、地域の未来が輝き続けられるような花火大会にしたいと考えています。

毎年この時期は会員総出で、市内各所を直接訪問させていただき、多くの企業や市民の皆様から、ご協賛をいただいております。ぜひ、今年も皆様のご支援・ご協力をお願いいたします。



公益社団法人おおさき青年会議所 理事長 安部 文秋 さん

活動の概要

昭和36年8月4日に古川青年会議所として発足。平成18年の大崎市誕生に合わせ、「おおさき青年会議所」と改称。平成24年には公益社団法人格を取得。この年、結成50年の節目を迎える。OBやOGから現役会員まで、世代を越えたつながりは、同会の大切な財産となっている。



▲昨年の花火大会の様子